

四半期報告書

(第54期第3四半期)

株式会社 昭和システムエンジニアリング

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	4
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期財務諸表】	8
2 【その他】	11
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	12

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月13日
【四半期会計期間】	第54期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社 昭和システムエンジニアリング
【英訳名】	SHOWA SYSTEM ENGINEERING CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 尾崎 裕一
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号
【電話番号】	東京(03)3639-9051（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 五十嵐 真貴
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号
【電話番号】	東京(03)3639-9051（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 五十嵐 真貴
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第3四半期累計期間	第54期 第3四半期累計期間	第53期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	4,581,023	4,604,296	6,210,810
経常利益 (千円)	401,601	423,509	485,111
四半期(当期)純利益 (千円)	273,523	288,329	324,260
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	630,500	630,500	630,500
発行済株式総数 (株)	4,810,000	4,810,000	4,810,000
純資産額 (千円)	3,151,249	3,419,096	3,217,004
総資産額 (千円)	5,782,885	6,142,814	6,145,954
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	61.82	65.16	73.28
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	24.00
自己資本比率 (%)	54.5	55.7	52.3

回次	第53期 第3四半期会計期間	第54期 第3四半期会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	20.00	23.64

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称を変更しております。詳細は「第4 経理の状況 1 四半期財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が継続し、2019年10月より実施された消費増税の国内景気への影響が懸念されますが、総じて緩やかな回復基調が続いております。

一方、世界経済は米国の通商政策等による貿易摩擦や中東・東アジア地域における地政学上のリスク等の影響が懸念され、先行き不透明な状況で推移しております。

当社を取り巻く情報サービス産業におきましては、政府公表による「Society5.0」時代のデジタル化実現に向けて、ICTの更なる活用が見込まれるとともに、新技術の高度化、多様化に対応するための技術者不足も課題となるなか、引き続き情報サービス産業に対する需要の拡大が見込まれております。

このような状況の中、当社は従来からの“Traditional IT Business”を維持・拡大し、新たな“Digital Business”商談へ提案、受注活動を実施してまいりました。

この結果、当第3四半期会計期間末の財政状態及び当第3四半期累計期間の経営成績は以下のとおりとなりました。

① 財政状態

当第3四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ3百万円減少し、6,142百万円となりました。

当第3四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ205百万円減少し、2,723百万円となりました。

当第3四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ202百万円増加し、3,419百万円となりました。

② 経営成績

当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高4,604百万円（前年同期比0.5%増）、営業利益415百万円（前年同期比5.4%増）、経常利益423百万円（前年同期比5.5%増）、四半期純利益288百万円（前年同期比5.4%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

第1四半期会計期間より、従来の「BPOエントリー事業」から「BPO事業」へとセグメントの名称を変更しております。なお、当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

a. ソフトウェア開発事業

ソフトウェア開発事業は、売上高4,496百万円（前年同期比0.2%増）、売上総利益730百万円（前年同期比0.3%増）となりました。

b. BPO事業

BPO事業は、売上高107百万円（前年同期比16.3%増）、売上総利益8百万円（前年同期は売上総損失1百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は4,927百万円（前事業年度末比26百万円の増加）となりました。主な要因は売掛金が30百万円増加したことによります。

(固定資産)

当第3四半期会計期間末における固定資産は1,215百万円（前事業年度末比29百万円の減少）となりました。主な要因は投資その他の資産に含めた投資有価証券の時価評価額が28百万円上昇したものの、繰延税金資産が61百万円減少したことによります。

その結果、当第3四半期会計期間末における資産合計は6,142百万円（前事業年度末比3百万円の減少）となりました。

(流動負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は679百万円（前事業年度末比276百万円の減少）となりました。主な要因は未払法人税等の減少95百万円及び賞与引当金が190百万円減少したことによります。

(固定負債)

当第3四半期会計期間末における固定負債は2,043百万円（前事業年度末比71百万円の増加）となりました。これは退職給付引当金が増加したことによります。

その結果、当第3四半期会計期間末における負債合計は2,723百万円（前事業年度末比205百万円の減少）となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は3,419百万円（前事業年度末比202百万円の増加）となりました。主な要因は配当金の支払106百万円による利益剰余金の減少があったものの、四半期純利益288百万円の計上による利益剰余金の増加及びその他有価証券評価差額金19百万円の増加によるものであります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,000,000
計	18,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,810,000	4,810,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,810,000	4,810,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	—	4,810,000	—	630,500	—	553,700

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 385,100	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 4,423,800	44,238	—
単元未満株式	普通株式 1,100	—	—
発行済株式総数	4,810,000	—	—
総株主の議決権	—	44,238	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式69株が含まれております。

② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合 (%)
株式会社 昭和システム エンジニアリング	東京都中央区日本橋 小伝馬町1番5号	385,100	—	385,100	8.00
計	—	385,100	—	385,100	8.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、監査法人大手門会計事務所による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,161,260	4,150,388
売掛金	703,265	733,447
仕掛品	18,743	12,912
その他	17,380	30,585
流動資産合計	4,900,650	4,927,334
固定資産		
有形固定資産	169,907	167,282
無形固定資産	3,438	3,358
投資その他の資産		
繰延税金資産	693,077	631,396
その他	378,879	413,442
投資その他の資産合計	1,071,957	1,044,838
固定資産合計	1,245,303	1,215,479
資産合計	6,145,954	6,142,814
負債の部		
流動負債		
買掛金	246,002	228,044
短期借入金	10,000	10,000
未払法人税等	103,950	8,889
賞与引当金	343,944	153,276
その他	252,152	279,598
流動負債合計	956,049	679,809
固定負債		
役員退職慰労未払金	60,973	60,973
退職給付引当金	1,911,926	1,982,934
固定負債合計	1,972,899	2,043,908
負債合計	2,928,949	2,723,717
純資産の部		
株主資本		
資本金	630,500	630,500
資本剰余金	553,700	553,700
利益剰余金	2,355,111	2,537,245
自己株式	△200,688	△200,688
株主資本合計	3,338,623	3,520,757
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	57,759	77,717
土地再評価差額金	△179,378	△179,378
評価・換算差額等合計	△121,619	△101,660
純資産合計	3,217,004	3,419,096
負債純資産合計	6,145,954	6,142,814

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	4,581,023	4,604,296
売上原価	3,854,959	3,865,831
売上総利益	726,064	738,465
販売費及び一般管理費	331,832	322,949
営業利益	394,232	415,515
営業外収益		
受取利息	383	355
受取配当金	4,774	5,377
受取家賃	1,395	1,395
受取手数料	614	595
雑収入	280	322
営業外収益合計	7,447	8,045
営業外費用		
支払利息	32	32
固定資産除却損	45	19
営業外費用合計	77	52
経常利益	401,601	423,509
税引前四半期純利益	401,601	423,509
法人税、住民税及び事業税	63,670	82,305
法人税等調整額	64,408	52,873
法人税等合計	128,078	135,179
四半期純利益	273,523	288,329

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	7,015千円	6,443千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月22日 定時株主総会	普通株式	106,195	24.00	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金

2. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月21日 定時株主総会	普通株式	106,195	24.00	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

2. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ソフトウェア開発事業	BPO事業	
売上高	4,488,533	92,489	4,581,023
セグメント利益又はセグメント損失(△)	727,894	△1,829	726,064

(注)セグメント利益又はセグメント損失(△)の合計は、四半期損益計算書の売上総利益と同額になっております。

II 当第3四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ソフトウェア開発事業	BPO事業	
売上高	4,496,768	107,528	4,604,296
セグメント利益	730,108	8,357	738,465

(注)セグメント利益の合計は、四半期損益計算書の売上総利益と同額になっております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間より、従来の「BPOエントリー事業」から「BPO事業」へとセグメントの名称を変更しております。なお、当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

また、前第3四半期累計期間のセグメントの名称は、当第3四半期累計期間のセグメントの名称に基づき作成したものを開示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	61円82銭	65円16銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	273,523	288,329
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	273,523	288,329
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,424	4,424

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月13日

株式会社昭和システムエンジニアリング
取締役会 御中

監査法人大手門会計事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 向井 真悟 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 亀ヶ谷 顕 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社昭和システムエンジニアリングの2019年4月1日から2020年3月31日までの第54期事業年度の第3四半期会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社昭和システムエンジニアリングの2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。